

平成 30 年度

大阪市立大学

学術情報総合センター

事業年報

令和元年 10 月

ご あ い さ つ

大阪市立大学学術情報総合センターは大学図書館機能と情報処理・ネットワーク機能を一体的に統合した組織として平成8年10月に開設されました。

開設後23年の間に、情報通信技術のめざましい発展に伴い、教育・研究活動に不可欠な学術情報を取り巻く環境は大きく変化しました。

近年、我が国においては、学術情報のオープンアクセス、オープンデータの取組みに関して研究成果の利活用を促進する観点から、論文のオープンアクセスが推進されています。その一連の取組みとしてオープンアクセス（情報公開）については、JPCOAR（オープンアクセスリポジトリ推進協会）が発足し、平成29年4月より本格的に活動を開始しております。さらに国内外での電子書籍の急速な普及は、利便性や価格面の観点から個人向けのみならず大学図書館をも視野に入れ発展しております。

そこで、本学におきましても、オープンアクセス方針を策定し、本学において生産された研究成果を広く学内外に公開することで、学術研究のさらなる発展に寄与するとともに機関リポジトリOCURAの利用促進を図ってまいりました。

また、大学教育においても反転授業やアクティブラーニングといった新たな授業スタイルが導入されつつあり、情報通信技術（ICT）の提供や活用が必要不可欠なものとなっております。

平成30年度は運営委員会を再編し、図書部会事項については運営委員会に集約し、教育研究用情報システムについては、新たに発足した教育研究用情報システム実務者会議で取り扱うことといたしました。また、満足度を高めると同時に将来構想策定に向けた参考資料とするため、学生対象の利用者アンケートを実施いたしました。

最後になりましたが、今後は大阪府立大学との大学統合に向けて、検討すべき多くの課題があります。関係各位におかれましては、今後とも当センターの運営にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年10月

大阪市立大学学術情報総合センター
所長 山崎 孝史

目 次

1. 平成30年度の主な動き	1
2. 日誌	
(1)行事	3
(2)各種会議	3
(3)主な訪問者	4
3. 主な刊行物	5
4. ガイダンス	
(1)ライブラリーガイダンス	6
(2)医学分館ライブラリーガイダンス	7
(3)情報処理システムガイダンス	7
5. サービス対象者数	8
6. 地域貢献	8
7. 決算	9
8. 図書部門	
(1)資料受入状況	10
(2)利用状況	19
(3)レファレンスサービス利用状況	22
(4)相互連携	23
(5)公開データベース利用状況	24
(6)電子リソース利用状況	25
9. 情報処理部門	
教育研究用情報処理システム	27
10. 教育・研究部門	
(1)教員組織	31
(2)教育	31
(3)研究	32
(4)センター業務	33
11. センターの組織	
(1)管理機構図	34
(2)運営委員会委員	35
(3)事務組織	36
12. 施設概要	37